

【米中対立・輸出規制下で進む「国産化」の実像】 中国半導体産業の自立戦略と日本企業へのインパクト

～ファーウェイ・SMIC・YMTC・CXMT・AI 半導体から読み解く機会とリスク～

— 講 師 —

桜美林大学 大学院 特任教授 山田 周平 氏

日 時 2026 年 1 0 月 2 7 日 (火) 午前 1 0 時～1 2 時
受講方法 会場受講／ライブ配信／アーカイブ配信 (2 週間、何度でもご視聴可)
会 場 SSK セミナールーム 東京都港区西新橋2-6-2 ザイマックス西新橋ビル4F

〔重点講義内容〕

中国は米国とのハイテク覇権争いの中で、半導体サプライチェーンの自立を国家戦略として推進している。米国による輸出規制や制裁が続くとされる一方、中国政府は巨額の資金支援を通じて国産化を加速し、ファーウェイや SMIC などの主要企業は存在感を高めている。近年は AI ブームを背景に、中国企業による AI 半導体開発も活発化している。

本講演では、中国半導体産業の現状と課題を整理するとともに、米中対立が中国企業や世界の半導体サプライチェーンに与える影響を分析する。そのうえで、日本企業にとっての機会とリスクを考察し、どう向き合うべきかを展望する。

1. 中国の半導体国産化の経緯と現状
2. 米中対立と輸出規制・制裁の最新動向
3. ファーウェイ復活の実態とその意味
4. AI 半導体を巡る中国企業の挑戦
5. SMIC・YMTC・CXMT など主要メーカーの競争力
6. 世界的な半導体サプライチェーン再編と中国の位置付け
7. 日本企業の機会とリスク
8. 質疑応答／名刺交換

PROFILE 山田 周平(やまだ しゅうへい)氏

日本経済新聞記者として北京・台北に 9 年間駐在し、ハイテク産業を継続的に取材。現在は大学院で中華圏の産業動向に関する研究・教育に従事している。現地取材に基づく分析により、中国半導体の現状と展望を分かりやすく解説する。

